

第2学年1組 英語科学習指導案

1 単元 「Universal Design」(Unit5 NEW HORIZON ENGLISH COURSE 2)

2 指導観

- 平成33年度実施の新学習指導要領では、小学校の外国語活動等で育んだ素地・基礎の上に、「聞くこと」、「読むこと」、「話すこと（やり取り）」、「話すこと（発表）」、「書くこと」の4技能5領域による実際のコミュニケーションにおいて活用できる技能を身につけ、目的や場面、状況などに応じて、日常的な話題や社会的な話題について、簡単な情報や考えなどを理解したり、これらを活用して表現したり伝えあったりすることができる力を養うとしている。

本単元は、昨今日常生活に浸透しつつあるユニバーサルデザイン（以下UD）が紹介されている教材である。年齢、男女、障がいのある・なし、身長、体重、力の強さ、右利き・左利き、国籍の違い、その時々には置かれた状況の違い等に関わらず、全ての人が安心して、快適に利用できるように、街や建物、製品や環境、サービスなどをデザインすることに目を向けさせたい。言語材料としては、接続詞のIf…/ When …/ Because …/ I think(know)などに続く接続詞thatを用いた文が取り上げられている。これらを用いて、生徒は、UDという社会的な話題について、自分の考えやその理由を述べながら、英語によるコミュニケーションの幅を広げ、言語や文化に対する理解を深め、積極的にコミュニケーションを図ろうとする態度を育成することができる。

- 生徒は、2学期始めのアンケートによると、「将来、英語は大切」（62%）、「英語を使えるようになりたい」（94%）とし、また、31%は「授業以外でも日常英会話を楽しん」でおり、授業においても意欲的に活動を行っている。しかし、一方で、47%の生徒が「日本語で十分」、「覚えられない」等を理由に「英語が好きではない」と答え、興味・関心の部分や知識の部分において、多くの支援を必要としている。

これまでに、生徒は、基本的な英語を用いて、簡単なやり取りやチャットとその書き起こし等の活動を通して、自分のことや、相手のこと、身近なもの・ことについて話をしてきた。9月からは、自分のことや日常的な話題について、発話量を増やすことを目標に、一分間まとまりのある文を話したり、書いたりする活動を行っている。

そこで本単元を学習するにあたり、社会的な話題について、聞いたり読んだりしたことを、話したり書いたりする活動へと繋げながら、「分かった」、「通じた」体験を積み重ねさせることが大切であると考えます。

- 指導にあたっては、生徒が、学んだ英語表現を意欲的に使い、多様な考え方を学び、自分自身の考えを表現し、更なる学びへと繋げながら、4技能5領域をバランスよく、統合的に活用できるコミュニケーション能力を育成したい。

そのためにはまず、単元全体の学習内容を把握する。ここでは、ALTの問いから、「ALTにUDについて説明する」という課題意識と相手意識を持たせる。次に、接続詞を用いた表現が用いられたまとまった文を聞いたり、読んだりしながら、その用法を学習し、それらを用いてUDについて対話、表現をする場面を設定する。ここでは、新言語材料の定着を図るために、パターンプラクティスなどで多くの例文を提示し、教科書の文を真似て活用できるようにしながら、簡単な自己表現活動を行う。また、自分の紹介したいUDについて交流したりすることで、UDの本質について考えを深める。最後に、単元を通して学習した内容を用いて、UDについてプレゼンテーションする場面を設定する。ここでは、将来、ディスカッションやディベートに繋がられるように、教科書の本文を真似ながらも社会的な話題について話したりする機会としたい。

3 目標

- (1) 接続詞のIf…/ When …/ Because …/ I think(know)などに続く接続詞thatを用いた文や既習の表現文が用いられた文を理解しようとしたり、積極的に自分の考えや意見を伝えようとしたりすることができる。
[コミュニケーションへの関心・意欲・態度]
- (2) 接続詞のIf…/ When …/ Because …/ I think(know)などに続く接続詞thatを用いた文や既習の表現文を用いて、自分の身の周りのことや考えを述べることができる。
[外国語の表現の能力]
- (3) 接続詞のIf…/ When …/ Because …/ I think(know)などに続く接続詞thatを用いた文や既習の表現を用いて表現された文を聞いたり、読んだりして、その内容を理解することができる。[外国語の理解の能力]
- (4) 接続詞のIf…/ When …/ Because …/ I think(know)などに続く接続詞thatの形、意味、用法に関する知識を身につけることができる。
[言語や文化についての知識・理解]

4 単元計画・評価計画 (12時間) 関(関心・意欲・態度)、表(表現の能力)、理(理解の能力)、知(言語や文化についての知識・理解)

次	時	学習活動・内容	ねらいと具体的な支援	観点別評価規準〔方法〕
一 つかむ	1	<p>1 単元全体の学習内容を把握する。 (1) ALTがUDについて質問するVTRを視聴する。 ・What is UD? Tell me some more.</p> <p>Unit's Goal: UDについてALTに説明しよう。</p> <p>(2) 身の周りのUDに気づき、感想を述べる。 ・Wow! It's interesting. ・Oh, I know it. It's useful.</p> <p>(3) UDが、多くの人を思う気持ちから来ていることに気づく。</p>	<p>プログラム全体の学習内容を把握できるようにする。 ・単元を通して、相手意識を持った表現活動ができるようにするために、ALTが生徒にUDについて問いかけるVTRを提示する。 ・即興で話す力を高めるために、UDの写真を見ながら、インタラクティブ、ピクチャー・ディスクリビングなどを行う。〔主体〕 ・UDへの理解を深めるために、外国人観光客へのUDを紹介したVTRを提示する。</p>	<p>関：単元全体の学習内容を把握し、学習内容に関心を持つ。 〔様相〕〔発表〕 〔ワークシート〕</p>
	5	<p>2 新言語材料の形と意味、用法を学習し、それらを用いた簡単な自己表現を行う。 (1) 新言語材料を含む教科書の本文を読み、JTEとのやり取りを行う。 A: Which do you often use, stairs or ramp? Why? B: I use ... because ~.</p> <p>(2) 新言語材料の用法を学習する。 ・If you are interested, ... ・When I was young, I was cute. ・I didn't like dogs because they looked very big.</p> <p>(3) ペアで、音読を行う。 (4) UDについて伝えたい内容を考え、表現する。</p>	<p>接続詞のある文の形、意味、用法を分かり、それらを用いて表現されたまとまりのある文を理解し、簡単な表現文を作成できるようにする。 ・新言語材料の形に慣れるために、パターンプラクティスを行い、例文を多く提示する。 ・教科書の様々な表現を実際の場面で使用できるようにするために、サイトトランスレーションシートを用いる。〔協働〕 ・読んで理解したことを、話す、聞く技能へとつなげるために、その内容について、簡単に紹介しあう場面を設定する。〔協働〕〔創造〕</p>	<p>理：UDについての紹介文を読んで、内容を理解することができる。〔発表〕 〔学習プリント〕</p> <p>表：接続詞のIf.../When.../Because.../I think(know)などに続く接続詞that文を用いて、簡単な表現文を作成することができる。 〔話す活動〕 〔Diaryノート〕</p>
三 深める	4	<p>3 自分の紹介したいUDについての紹介文を再考する。 (1) 光太の発表(5-4)を読み、外国人への言語サービス(5-5)について考え、UDの本質について考える。 ・This vending machine is useful because ... ・I think that UD is a kind heart to people.</p> <p>(2) UDについて、自分の伝えたい内容(紹介と感想)を見直す。</p>	<p>UDについて読んで理解し、広い意味でのUDについて、自分の考えを表現できるようにする。 ・UDについての考えを深めるために、それぞれの伝えたい内容や考えを交流し、自分の考えを見直す場面を設定する。 〔主体〕〔協働〕〔創造〕</p>	<p>関：意欲的に対話や説明を行っている。 〔様相〕 〔ワークシート〕 表：3文以上の英文を用いて、表現することができる。 〔ダイアリー用ノート〕</p>
	本時4/4	<p>4 ペアでオーラル・プレゼンテーションを行う。 (1) オーラル・プレゼンテーションを行う。 ・Our desks and chairs have tennis balls. If it is noisy in the classroom, we can't study well.</p> <p>(2) 話したことを書き起こす。</p>	<p>・社会的な事柄を話題にすることができるようになるために、プレゼンテーションを行う場を設定する。〔主体〕〔協働〕〔創造〕 ・プレゼンした内容について、文法的に見直すために、話した内容を書く活動を設定する。</p>	<p>関：UDの説明やそれについての自分の考えを述べようとする。 〔様相〕 〔ワークシート〕</p>
四 生かす	2	<p>6 プログラムのまとめを行う。 (1) 文法のまとめを行う。 (2) ALTに、UDについてのプレゼンとやりとりを行う。</p>	<p>UDについての説明や考えを、話したり、書いたりしようとする。 ・接続詞を用いた文の形と意味・用法について理解を促すために、視覚的に文法のまとめを行う。</p>	<p>知：単元の学習内容を身につけることができている。〔単元テスト〕 表：UDについて自分の考えを伝えることができる。〔パフォーマンステスト〕</p>

5 本時 平成30年11月13日(火) 第5校時 少人数1教室において

(1) 本時の指導観

前時までに生徒は、接続詞のIf…/ When…/ Because…/ I think(know)などに続く接続詞thatを用いた文や既習の文を用いて、自分のことや、身の周りのことについて聞いたり、話したり、書いたり、読んだりする活動を行ってきた。

本時では、社会的な話題について、その内容や自分の考えを表現しようとする力ができる力を養うことをねらいとしている。まず、本単元で学習した内容を想起させる。ここでは、後に行う活動で生かせるよう助言する。次に、本単元を通して、聞いたり読んだりしながら学習してきた内容について、1分間で、説明・自分の考えを述べる場面を設定する。ここでは、マインド・マップにメモを準備する時間を設定し、メモと相手を見ながら、プレゼンテーションする場面を設定する。その後、話したことを書く場面を設定する。ここでは、プレゼンテーションで話した内容を、文法的にも振り返らせ、新言語材料の定着につなげる。最後に、代表生徒のプレゼンテーションを聞き、見、今後の学習に活かす。

(2) 本時の主眼

新言語材料や既習の表現を用いて、ユニバーサルデザインについて、意欲的に、表現したり伝えたりしようとする力をつける。

(3) 評価の観点・方法

評価規準	観点	段階	方法
新言語材料や既習の表現等を用いて、ユニバーサルデザインの説明や、それについての自分の考えを表現しようとする力をつける。	コミュニケーションへの関心・意欲・態度	深める	様相 ワークシート

(4) 準備

パソコン、ワードカウンター、ワークシート、ストップウォッチ

(5) 展開

段階	学習活動・内容	自分事の問い(分類)	具体的な支援	配時	形態
つかむ	1 ウォーミングアップを行う。 (1) ウォーミングアップを行う。 ① ヴォーカルエクササイズ ② ペアワーク ③ 音読 (2) 挨拶をする。	・今日も、しっかり声を出していこう。基本のことをしっかり覚えていこう。(意欲)	・リラックスして声を出しやすい状態を作るために、ウォーミングアップを行う。【主体】	5分	ペア
	2 本時の活動を知る。 (1) 本時のめあての確認をする。	・わかってもらえるように伝えたい。(憧れ、可能性)		5分	
さぐる	めあて ユニバーサルデザインについて、自分の考えも含めて、1分間でプレゼンしよう。				
	2) コミュニケーションをとるとき のルールを確認する。 ・アイコンタクト 等 3 オーラル・プレゼンテーション を行う。 (1) マインド・マップを書く。 (2) ペアでプレゼンテーションを行う。 ・Universal design products are all around us. For example, shampoo bottles have bumps. I think that it is great because these are very useful for everyone.	・こうすれば、前回よりもたくさん話せるだろう。(方法の確認・試行錯誤) ・通じた!分かった!(振り返り) ・なるほど!そういう言い方があったか。(考えの形成) ・次は、こうしてみよう。(分析・試行錯誤) ・さっきより、たくさん話せた!(振り返り)	・プレゼンテーションしやすくするために、絵を提示する。 ・即興で「話す」力を高めるために、英語の発話量に焦点を当てる。 【主体】【協働】【創造】 ・社会的な話題について話したり書いたりできるようにするために、教科書の文を真似しながら、その内容と自分の考えを述べるよう指示する。 【主体】【協働】【創造】	20分	ペア
深める	(3) ペアを変えて、プレゼンテーションを行う。 (4) プレゼンテーション内容を書き起こす。	・話した内容を記録したい。書けるようにならなければ。(必要感) ・あっ、こう言えば良かったんだ。(分析)	・本時で使用した表現を確認させるために、代表生徒のプレゼンテーションを紹介する。【協働】	10分	
生かす	4 本時のまとめをする。 (1) 代表生徒のプレゼンテーションを聞く。 (2) 代表生徒のマインド・マップとワークシートを見る。 (3) 自己評価を行う。	・自分もあんなふうに話せるようになりたい。(憧れ) ・次はもっと話したり、書いたりできるようにしたい。そのために、たくさん覚えたい。(意欲)		10分	一斉